



# 学校だより



令和8年4月30日  
江戸川区立新田小学校  
第2号

## 子供の詩から感じたこと

校長 鈴木 剛司

令和8年度がスタートして1ヵ月が経とうとしています。新しい環境の中で、子供たちはそれぞれに頑張り、その疲れが出てきている頃かと思います。ゴールデンウィークは、心も体もリフレッシュをして、疲れを癒してほしいと思っています。

さて、下の詩は6年生の児童が「国語の詩の授業を受けて、自分でも詩を作ったので見て下さい。」と言って持ってきた詩です。とても素敵な詩なのでここで紹介させていただきます。

一人一人の人間から  
個性が生まれる 感性が生まれる  
たくさんの小さな考えから  
一つの大きな考えが生まれる  
みなそれぞれの考えは  
みなそれぞれちがっていい  
一つ一つの考えから  
大きな歯車が生まれる

一つの言葉から  
新しい考えが生まれる  
一つの言葉から  
傷つく人が生まれる

言葉には  
それぞれ違った考えに  
それぞれ違った意味を  
生む力がある

人には感性をもつ権利がある  
時に喜び 時に悲しみ 時に怒る  
しかし  
それを笑うことは決して許されない  
笑った人こそが真の笑われ者だ

昨年度は、詩の暗唱を行い、私なりに詩を通して子供たちに、「個性」や「言葉」を大切にすること、そして間違いは宝物に変えられるといったことを伝えてきました。詩を覚えるのに精一杯で、内容まで吟味するのは難しいだろうと思っていました。しかし、この詩を読むと個性の違いを大切にしていくことの大切さや難しさ、そしてそれぞれの個性をみんなで大切にしていくことが大きな力となることも伝えているように思います。子供なりに、それぞれの違いを感じ、悩み、個性を出す難しさを感じているのだと知らされました。

この詩を通して改めて感じたのは、大人は「こうであるべき」という概念のもと、子供たちを小さな枠の中に入れようとしていることも多いのではないかとことです。

同じ物を見ても、子供の数だけ感じ方は違います。違う考えを排除するのではなく、どうしてそう考えるのかみんなで考えたり、違う考えを取り入れることで新しいものを生み出したりといったことができる環境を築いていきたいです。

個性とは、自分のわがままを通すこととは違います。そこはしっかりと抑えながら、子供たちの個性が大事にされる学校にしていきたいです。

5月には運動会があります。運動が得意な子にとっては活躍の機会となりますが、そうでない子にとっては、大変な労力を要する機会でもあります。一人一人の子は、その子が持っている力の中で頑張っています。それを、大人がしっかりと受け止め、子供たちにその頑張り伝えていかなければいけません。それは、学習においても、遊びにおいても、どんな場面においても言えることです。苦手だから、嫌だから全く「やらない」のではなく、「今の自分の力ならどこまで頑張れるのか」を考え、それをやり遂げて達成感を得ることで、自尊感情が育まれていくと思います。自分に自信をもって、主体的に様々なことにチャレンジしていく子供たちの姿を見るのを楽しみにしています。